

令和4年度後期学校評価の結果の考察

■回答日時 令和4年11/24(木)～11/30(水)

■回答数 教職員：19 保護者：164 児童：174

■評価の分野

ア、学校経営に関して イ、学習指導に関して ウ、生徒指導に関して
エ、学校の特色・課題に関して

■評価の観点 ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

※プラス評価(そう思う, だいたいそう思う), マイナス評価(あまりそう思わない, そう思わない)

I 三者の結果の考察

1. 学校経営について

前期に引き続き、今回も全ての項目において三者とも評価が高かった。(プラス評価90%以上)

グラフ②からは、後期は様々な学習や行事があったが、知・徳・体バランスの取れた児童の育成を達成するために、教職員が前期以上にそれぞれ工夫しながら取組を充実させてきたことがうかがわれる。また、学年だよりや学校ホームページ、あんしんメールを用いて、学校の様子や連絡をこまめに家庭に情報提供してきたことに対して、保護者のプラス評価がほぼ100%になった(グラフ③)。さらに、定期的な安全点検で上がった個所への適切な処置や校内の安全な過ごし方の指導、教職員に対する不審者対応訓練の実施や敷地内の安全対策、保護者やボランティアと協力した登下校の安全対策や登下校指導なども適宜行ってきた。

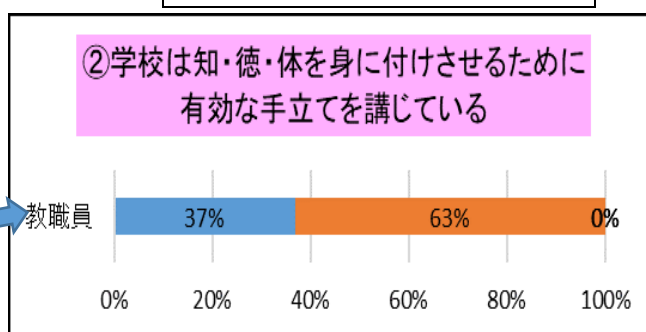
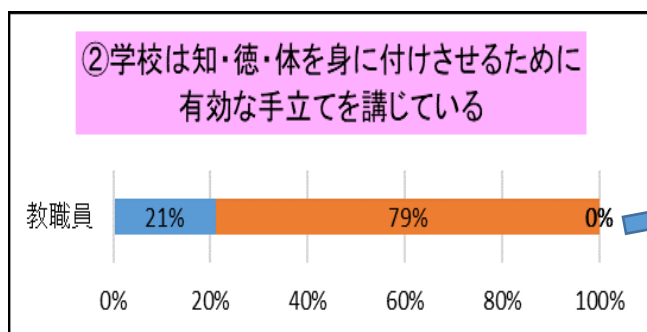
このような取組の成果が、保護者や児童からも評価されていることがうかがえる。今後も、家庭や地域と連携した安全で、開かれた、楽しい学校づくりに努めていきたい。

② 学校教育目標達成の取組

前期

後期

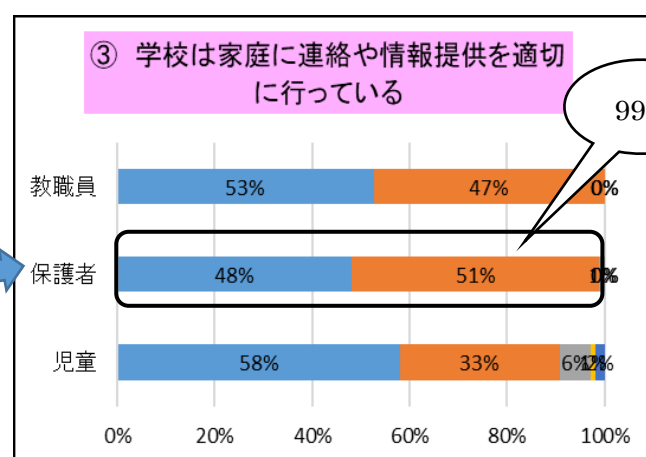
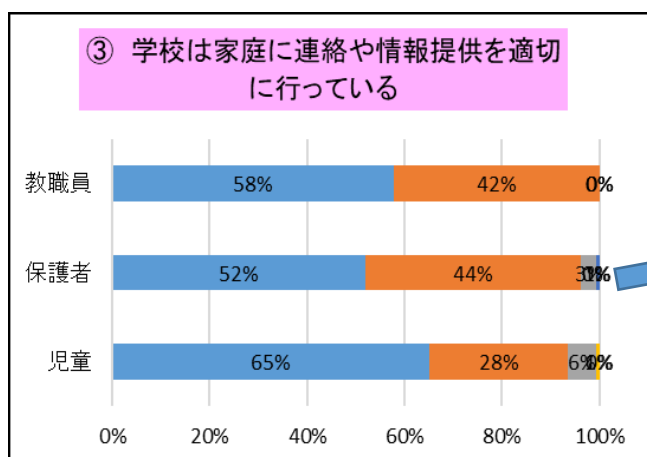
「そう思う」の割合が大幅に増えた。



③ 家庭への連絡や情報提供

前期

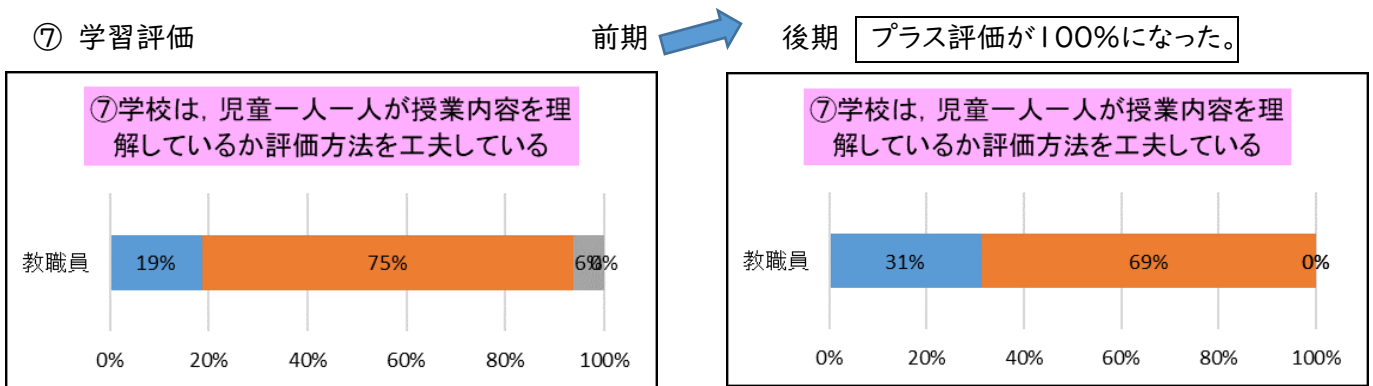
後期



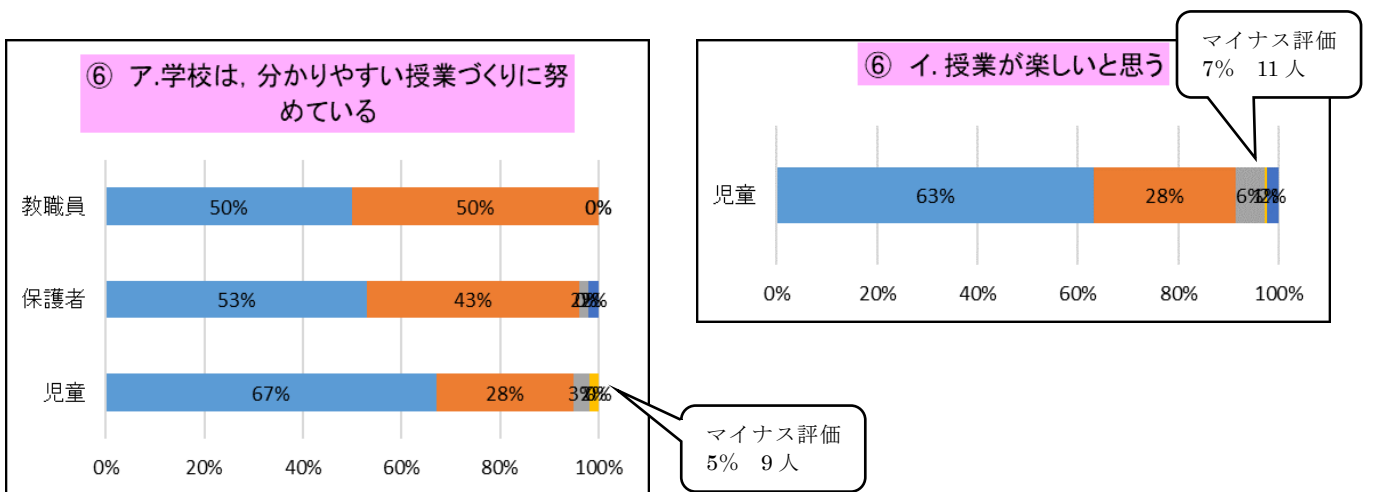
2. 学習指導について ■ そう思う ■ だいたいそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない

前期に引き続き、授業づくりに関わる項目については、三者ともに良好な結果（プラス評価90%以上）であった。

特に、教職員については、「わかりやすい授業づくり」、「ICT 機器の活用、話し合い活動の導入」、「道徳の授業を要とした豊かな心の育成」のプラス評価がいずれも100%となり、校内研究で授業改善を意識し、どの授業においても主体的、対話的で深い学びが実現するよう各自取り組んできたことがうかがわれる。また、⑦学習評価もプラス評価が100%になったことから、指導と評価の一体化を意識した評価方法の工夫に向上が見られた。



また、個別懇談を1, 2学期と増やしたことで、評価方法についての説明が十分行われ、課題点について担任と保護者と直接話し合うよい機会となっている。

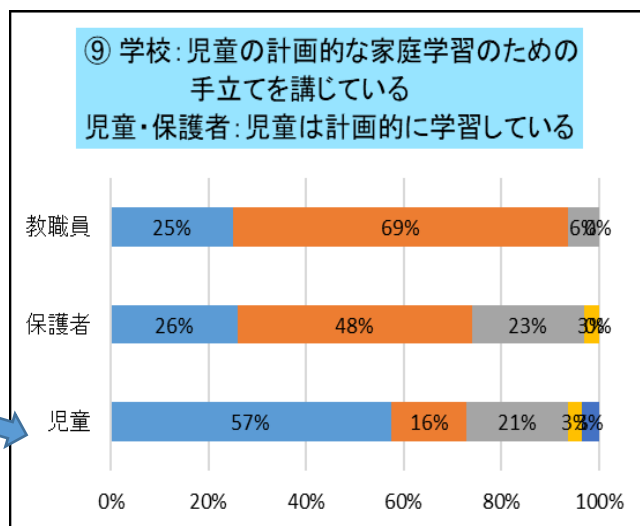
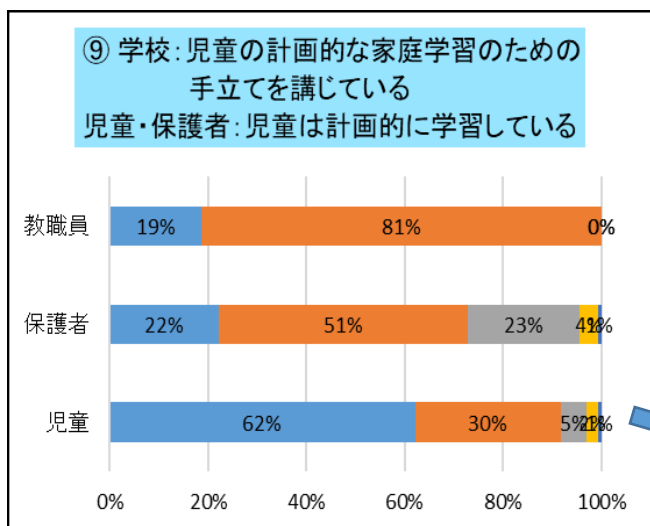


さらに教育の専門職として、少数ではあるが授業に対し「あまり楽しくない」7%（11人）、「あまり分からない」5%（9人）と答えた児童の存在も忘れず、全ての児童にとって「学ぶ楽しさのある授業」、「個々の学び方に対応した分かる授業」への努力を続けていきたい。

⑨ 家庭学習

前期

後期



一方、「計画的な家庭学習」について、学校では前期の反省を踏まえ、後期は以下のような取組を継続しながら、家庭と連携し定着を目指してきた。

- ①前期に引き続き、定期的に家庭学習取組週間を設け、期間中毎日家庭学習の内容と時間をチェックカードに記入するとともに、児童の振り返りや、保護者の一言を書いてもらうことで、意識の継続を図った。
- ②家庭学習の取り組み方や家庭学習定着週間の方法などを改めて児童に説明したり、保護者に通知したりし、啓発を行った。よい家庭学習を通信や掲示で紹介した。
- ③個別懇談等で家庭学習の様子を話し合い、課題を持つ児童に個別指導を行った。

しかし、保護者調査の回答を個別に見てみると、担任と同一歩調で進め習慣化されてきた家庭がある一方、親の理想に及ばない我が子の様子にやや不安を抱いている家庭や、依然定着できずにどのようにアプローチしたらよいのかと感じている家庭があることがわかった。児童調査結果が前回より下がったことについては、家庭学習の取組を継続して進めるうちに、児童も計画的に家庭学習に取り組む大変さに気づいてきたためと考えられる。

保護者と児童の認識が一致してきて共通の認識で取り組む地盤ができたので、これからは肝心である。それぞれ家庭の事情もあり、児童の性格も違うため難しい問題だが、家庭学習を自ら計画的にできる力はこれから先の学力にも大きくかかわるため、一概に家庭だけの問題だと片づけることはできない。今後も学校が適切な手ほどきをしながら、各家庭や個々の児童の取り組みやすい方法や内容をアドバイスしつつ、各家庭と協力して、各家庭で家庭学習の習慣化ができるよう応援していきたい。

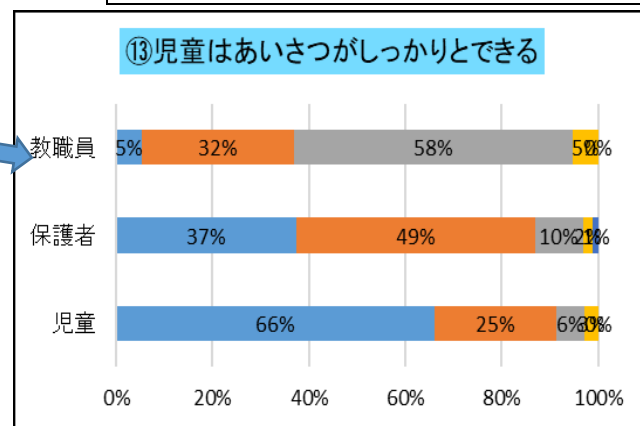
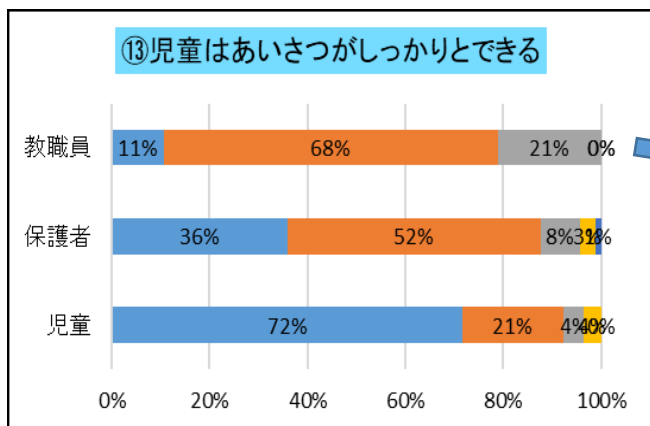
3. 生徒指導について

⑬ あいさつ

前期

後期

教職員のマイナス評価が驚くほど増えている。

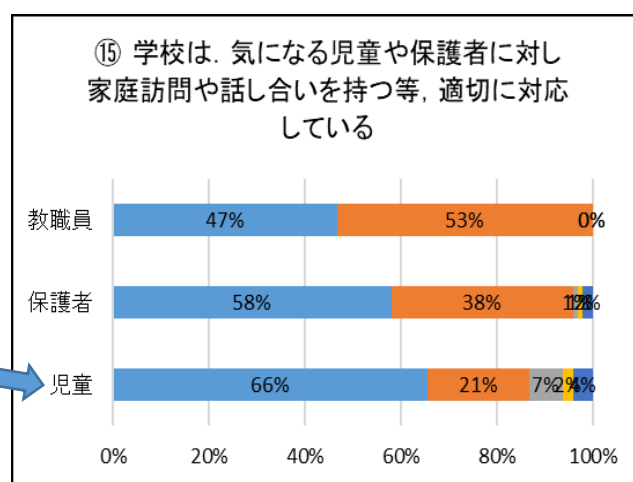
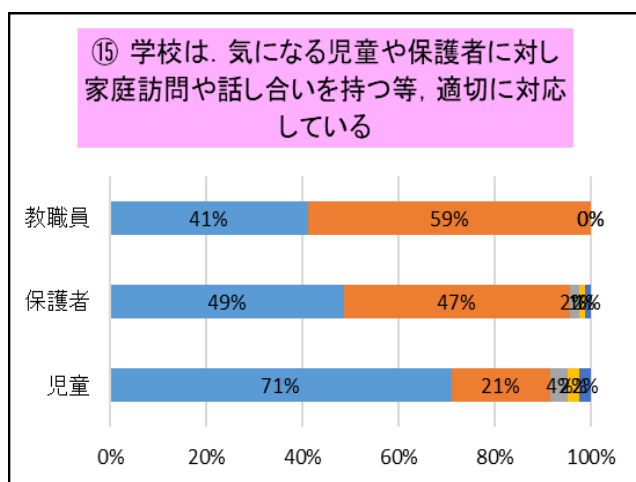


前期でも課題となっていた「あいさつ」は、後期学校評価では、教職員のプラス評価が40%以下に下がってしまい、あいさつについてより厳しくとらえている様子がうかがわれる。家庭に比べて、学校では、あいさつを必要とされる場面が圧倒的に多く、（登下校中、児童玄関でのあいさつ、朝の会や帰りの会、授業、給食、来校者、他の教室への入室等）それは、そのまま実社会に出た時のあいさつ場面とほぼリンクする。教職員がそれぞれの場面で、「自分から、進んで、はっきり言えているか」という観点で見えていくと、やはり「足りない」と感じるが多くなってしまっているのであろう。再度、あいさつをする意味や場面についての指導を各学級で行いつつ、「あいさつの主体」として実行できるよう働きかけていきたい。また、児童会のあいさつ運動も、方法や場所等をさらに工夫して、「いつでも、どこでも自然にあいさつができる児童の育成」をめざしたい。

⑤ 相談・支援

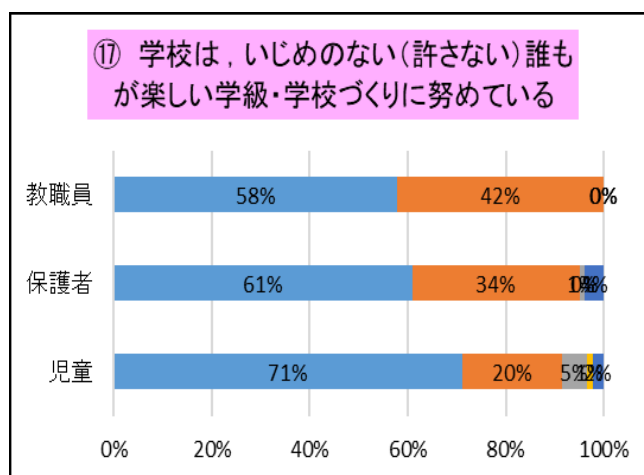
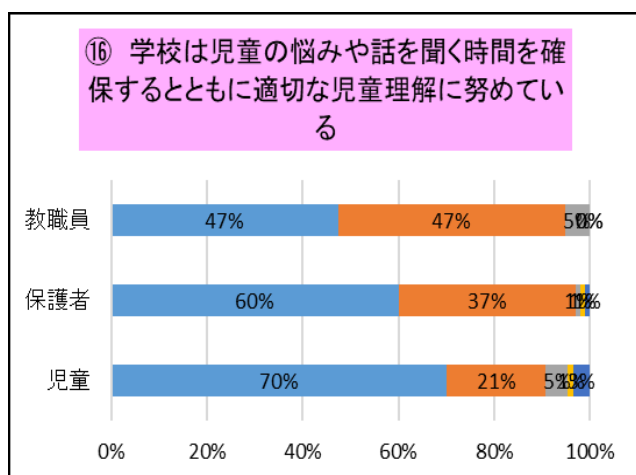
前期

後期



⑥ 児童理解

⑦ いじめのない楽しい学級づくり



児童や保護者への相談・支援の体制、児童理解の取組、いじめのない楽しい学級づくりについても、教職員はとて熱心に取り組み、保護者や多くの児童に引き続き満足していただいている。

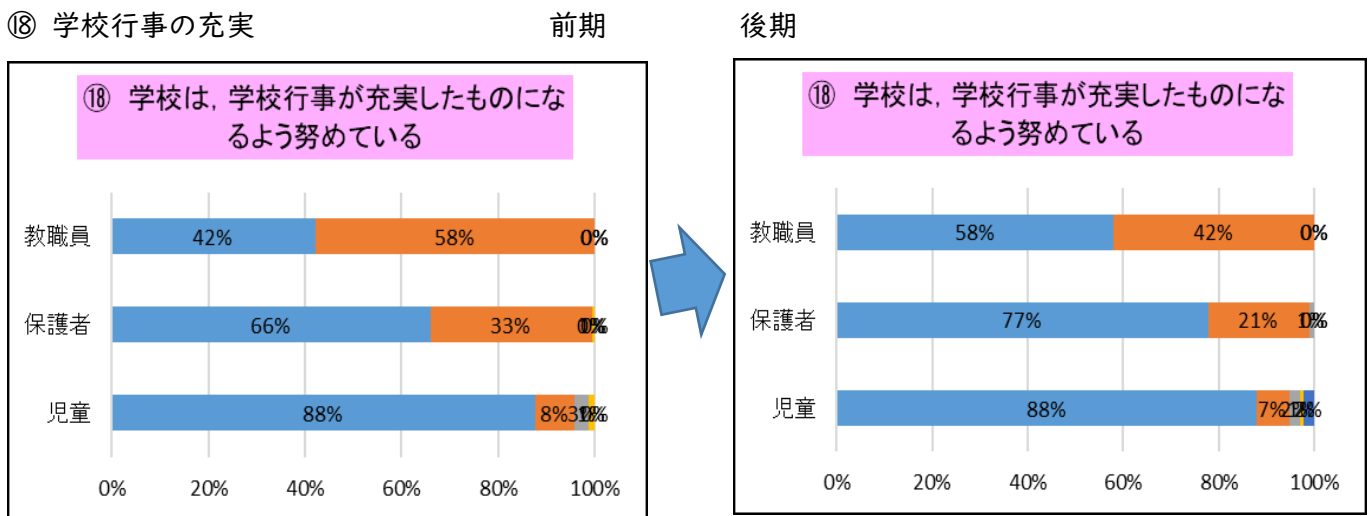
しかし、「もっと先生に話を聞いてほしい」、「自分のことをわかってほしい」、「クラスで友達とたのしく過ごしたい。」と願っている児童も依然として存在する。これらの児童のことを気かけ、今後とも児童や保護者が気軽に相談できる学校の体制づくり、いじめのない一人ひとりが居場所のある学級づくり、児童理解や保護者との連携に努めていきたい。

4. 特色・今日的課題について

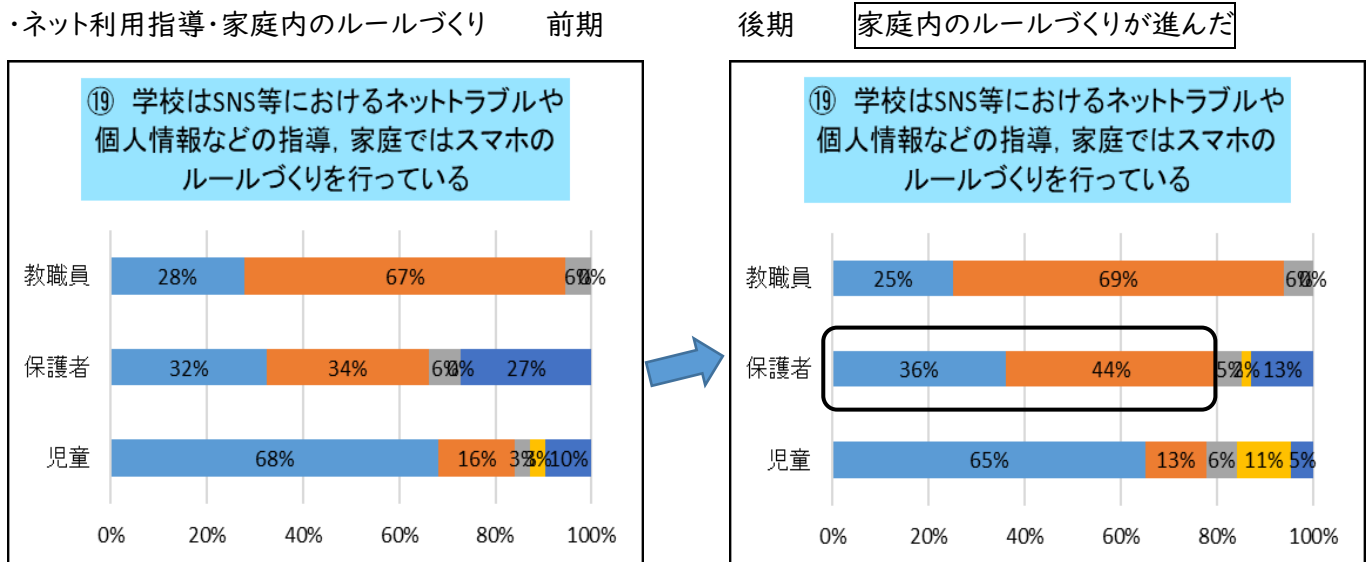
「防災・安全教育」については、引き続き予告なし避難訓練後の評価、改善を行うとともに、児童の登下校に関しても、集団下校や複数下校の指導、児童見守りボランティアの協力をお願いし、よい評価を得ることができた。さらに、見守りボランティアの体制整備やあんしんメールへの登録など、いざという時、より多くの目で児童の安全を見守れるよう改善を行った。今後も様々な場面を想定して、児童の安全確保を図っていききたい。

また、「学校行事の充実」については教職員、保護者ともに「そう思う」の数値が上がっている。新型コロナ対応に十分配慮しながら、児童の活躍場面を十分保証するように工夫して実施した運動会や報徳祭、農業ボランティアを活用した農業体験学習や校外学習などの体験的な学習が、三者に十分評価されていると考えられる。

⑧ 学校行事の充実



・ネット利用指導・家庭内のルールづくり 前期



児童のスマホ（携帯電話）所持率は37%のままであった。スマホ（携帯電話）のルールづくりについては、今回もまだ十分とは言えないが、後期調査では、保護者の家庭でのルールづくりが進んでいることが数値から読み取れる。1学期のPTA講演会「ほっと、ネットセミナー」の実施、保健だよりによるメディアコントロールの必要性の呼び掛け、市や県主催の青少年へのインターネット対策講座の紹介など、一つ一つの地道な取組が実を結び、家庭の関心の高まりにつながったことが考えられる。今後も、スマホやインターネット（YouTubeやゲーム等も含む）の使用や付き合い方につい

での情報を保護者や児童に適宜提供していくと同時に、児童に対しては「GIGA ワークブックやまなし」等効果的な教材を用いて、情報リテラシーの教育を行っていきたい。

一方、以下のような結果から、教職員に関わる問題として、教職員の働き方改革は喫緊の課題であることが今回も明らかになった。

教職員の業務に関わる項目のプラス評価の割合	前期	後期
ア. 会議は機能的・建設的に行われている	69%	→ 66%
イ. 勤務時間を意識した仕事の効率化に努めている	84%	→ 72%
ウ. 今の仕事に負担感はあまり感じていない	53%	→ 48%

多忙化改善のために、学校はこれまで、保護者のご理解とご協力をお願いしながら、

- ・音声ガイダンスを導入し、勤務時間外の電話対応の負担軽減を図る。(前期)
- ・夜間や休日の緊急連絡、欠席・遅刻等の連絡にICT（スマホ・パソコン）を活用し、対応業務の効率化を図る。
- ・行事の開催方法を工夫し、取組を精選しつつ、より効果的な行事になるよう計画的に取り組む

などの改善を行ってきた。

その結果、朝の電話対応等が減り、児童への対応に時間を割くことができるようになった。また、感染症対策と両立した効率的な運動会や報徳祭の開催ができた。

しかし、学校の制限が徐々に緩和されコロナ前の活動の復活するにつれ、感染対策と活動との両立という新たな課題が生まれ、検討すべき内容や業務が増え、教職員の仕事はますます勤務時間内に収まらず、負担感も増している。

本校でも、健康で毎日笑顔で児童の前に立てること、児童と触れ合う時間や教材研究の時間をもち、児童によりよい指導ができることを、全ての教職員が望んでいる。児童も教職員も健康で生き生きと輝ける学校、児童のためにそんな学校にしていきたい。

そのために、今後も保護者や地域の方々に御理解・御協力をお願いしながら、職員みんなで知恵を出し合い、本当に必要なことを見極めながら、小さなことから一つ一つ工夫して業務改善につなげていきたい。

Ⅱ 保護者からのコメントへの回答

※紙面の都合上学校全体にかかわるものに絞らせていただきました。

◇「運動会の時の児童の座る位置、及び表現の踊る向きを保護者が見やすいようにしてほしい」「報徳祭の発表時に保護者用の椅子を用意してほしい」とのご意見をいただきました。運動会も報徳祭も、新型コロナの感染対策を十分行いながらも、児童の学習の成果が存分に発揮できるようにするため、保護者への発表の場と同時に他学年の児童にとっても学び合う場とするために、職員が総合的に協議し、様々な配慮をしながら今年のような方法で実施しましたことをぜひご理解ください。今後の新型コロナや世の中の状況に合わせて、このようなご意見を参考に、これからもより良い方法をさぐってまいりたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

◇校内の新型コロナ感染状況等についてメール等で知らせてほしいというような趣旨の要望がありました。今は家庭内や学校以外の活動での感染が主なことがわかってきましたので、家庭で十分な健康観察をして、心配な場合は登校を見合わせていただくということをお願いすることで、学校内での感染はほぼないと考えられます。実際、本校でも学校内での感染事例はなく、学級閉鎖などの対策が必要な感染者数は今のところありませんので、ご安心ください。以前は新型コロナの新規感染者が出るたびにメールでお知らせしていましたが、市や県からも度々のメールの必要はなく、個々の感染者の差別やいじめにつながらないように十分に配慮するように通達されています。今後も、学校内での手指消毒や感染対策をしっかりと行いつつ、県内や周辺の感染状況に注意し、少し増えてきたなと感じたら、必要に応じてご家庭に注意喚起のお願いメールをさせていただきます。ぜひ、引き続き家庭での感染予防、健康観察、体調がすぐれない場合は自宅で休養するなどについてご協力をお願いいたします。

◇「毎年地区毎に役員を決めているのですが、地区毎に児童の人数も違うので、地区を関係なしに学年毎で何人というふうにして頂きたいです。」とのご意見をいただきました。本校もかつてに比べ児童の人数も減り、地区により児童数も差が出てきたことを踏まえ、早速R5年度から3年かけて順次、地区別の児童数を踏まえたPTA 役員の選出方法に変えていく計画を進めています。PTA にかかわる負担を軽減し、持続可能なPTA 活動を実現していくためです。4月のPTA 総会にて、詳しく説明させていただきます。